

新潟県 公民館月報

昭和61年8月号

発行所 新潟県公民館連合会

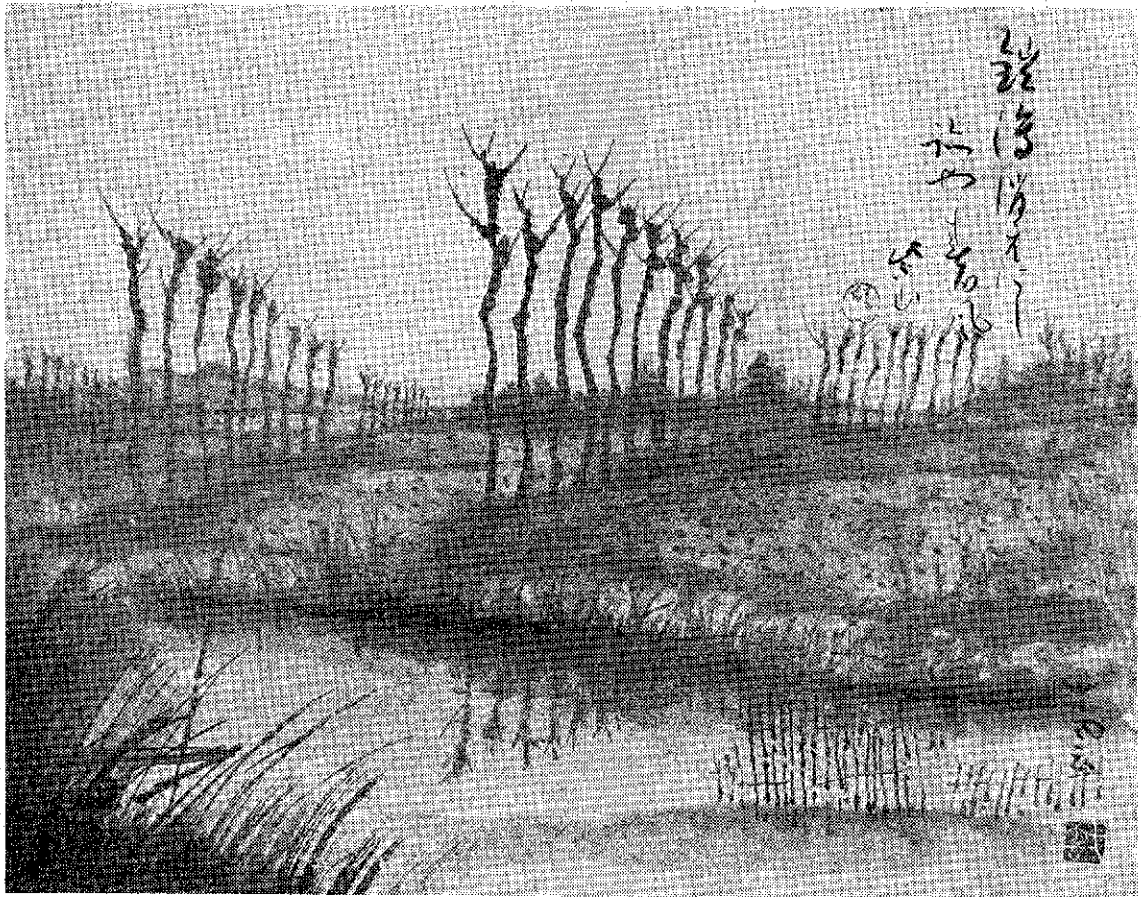
【新潟市川端町2-9・林業会館内】

【電話・新潟 (0252) 24-6073】〔振替新潟0-4049〕

発行人 会長 志水 亘

編集人 事務局長 上村 捨二郎

【定価1部 120円 年共 1,440円】



銚子潟の風景

郷愁

西蒲原平野の茫々たる眺めは、緑一色の稲田である。ここに、四十八潟といわれる、大小の沼や潟がある。開墾や開発の鉄は、それらの潟の水を破つてまで稲を植えて来た。

ここ銚子潟は、三〇〇haといわれ、上流の水を集めた遊水潟であった。西蒲原郡の中央に位置して、昔から人間たちに、「水の幸」を恵んでくれた。この「水の幸」だけで生活していた人たちも多かった。魚族の宝庫であったからである。

そしてまた、いろいろな伝説の発祥地でもあった。周辺の村々では、銚子潟に因んだ話が、たくさん語られている。昔から、人間たちに恐れられる存在でもあったのである。

人々に畏敬された銚子潟も、今は完全に陸地化して、何百年も前から田圃と一しょに、稲を育てている。

鈴木一雄さん、八十四歳の脳裡に残っている銚子潟は、描かれたものとは、全く違ったものであるうが、ともかく銚子潟という言葉を使いたいのである。越後の田圃で、最も新参者の、もとの姿を忘れないとする心が……。

絵画 水墨画 鈴木一雄
文 巻町公民館書道教室

西村 欣策

公民館総合補償制度

公民館の実態に応じ、加入の種類は自由です。中途加入受付中!

郡市公連事務局長会議

県公連に望むもの

厳しい時代の活性化をさぐる

去る七月九日、新潟市中央公民館会議室を会場に、郡市公連事務局長会議が開催された。

議題は、当面の問題である本県公連の活性化についてであった。国および地方の活性化が期待される今日、全国の公民館もまた当然のことながら厳しい試練の時代を迎えている。この時にあたり、本県でも公民館の活性化が急がれ、ひいては県公連の活性化も急務である。

出席した各郡市公連の事務局長等は26人、初めは重苦しい発言もあったが後段は建設的な発言が続出した。



熱心な意見交換

◆ 指導性を

○低成長下の自治体では、公民館の予算増や職員増は容易には望めない。この現状での公民館のあり方や、進むべき方向を示す指導性を発揮してほしい。

○市町村理事者に対する公民館への理解を深めるため、積極的な働きかけをする必要がある。

◆ 研修への取り組み

○公民館と教習局との人事交流が急がれている今日、初任者の研修が不足している。県公連独自の研修や、プロック公連等との連携が必要である。

◆ 県公民館大会の検討

○研修テーマを全国的に関連づけるなど兵同性を持たせたらどうか。

○日帰り研究会になって十年が経過する。パネルと講演というパターンに定着しつつあるがこれのみでは検討の必要がある。

○行事のしめつけの厳しい現状で、共同活動による研修を急がねばならない。

◆ 専門的な推進体制を

○県公連の活性化をテーマとして、専門的な推進体制をつくるかどうか。現に機能している公民館日報の編集委員会と同様に、公民館大会、研修等についても専門的な検討をすすめる推進体制が必要である。

～空模様と同じ心境～

県公民館連合会長の立場で、県社会教育委員を引き受けさせるを得なかったものの、会議出席のため県庁舎に向う気持は晴れない。

～現実の姿を数量化～

有識教育長さんのおいさつをいたたき、議長藤田さんのセシモノを経て、事務局からの

～社会的な事業・人的体制の両分野について、県内各自治体の平均的指標を求め作業と検討を精進してほしいという内容のようだ。

～地方交付税単位費用を標準とする自治省と文部省の間に共通理解が存在するのだろうか。こんな美談の中で、このための県行政の指標は、どんな費用をもつのかなどどうもならない疑問が湧いて出る。

～初回の会議は入口論に留まり、次回から社会教育事業部会と人的体制部会に分かれて議論をすすめることになった。

会議日誌

(6月25日 曇後雨)

県社会教育委員会会議に出席

私は県社会教育委員の皆さんとは、いわば同業者。それも、あちらが情報豊富な専門家であるのに対しこちらは新米の一館長であつてみれば、委員の椅子に坐るなどおこがましく会議中尻が落着かないだろう。しかし、かくな

説明があつた。

今期の委員への諮問主題は「社会教育を推進するための指針と方策」であり、①市町村社会教育行政指標、②県社会教育行政の取り組みべき主要課題と、具体的な審議事項となっている。

教育審議会の各甲・建議・報告が頭を隅をかすめた。立派なそれそれが市町村の社会教育現場にどれほど反映されたか、また、毎年の予算編成時にいかほどの実益をもたらしてくれたか、あつたか。国の設置において

トナリで、県の提案の核心は、「あるべき姿」像でなく、現実の市町村の実態を、例えばマイヤラムなどを活用して設置化、客観視することから、県の施策に具体的に何が必要かを検討する。それがねらいだろう。

～追記

会長として会議に出席するのが職務なり、報告をするのもつとめと思ひ筆を執り、会議の模様を伝えなければなりません。ただ議事メモでなく、会議の心象として私記することがあつてもお許しいただきたいと存じます。

(会長 志水 真記)

自助努力と陳情を

県公振連定例総会開く

本県公民館振興市町村長連盟で、今事業である第37回県公民館人々大会も例年とおぼろ共催することとなり、去る七月十六日新潟市の平安会会館におきき陳情を聞き、その後、本年夏の定例総会を開催した。

来賓に県教育委員会から月岡社会教育課長を、県市長会から佐藤事務局長をお招きして開会した。本会からは志水会長が出席し、厳しい時代の公民館振興について、バックアップを依頼する主旨のあいさつがなされた。

提出された陳情案件は滞りなく協議一致で可決された。本会のメ



幸福とか、住みよしの社会の基本的条件は、人びとが健康であるの一語につきや思ひます。



健康と好一健康と好単に病気がないといふだけでは、たゞく社会が、で好、具体的には、学的職業をすすめてゆくかたに、"灯台"と定義してあります。

議決後、公民館振興に關する意見交換がなされた。経済の低成長や、行革のしめつけによる冷害の時代における地方の活性化の推進力となるべき公民館のあり方についてであった。

郷土自治建設と公民館四十周年(抜粋)

全公連副会長 石井 耕一

地方教育委員会の設置により、公民館が市町村長の手から離れ、郷土合併により、多くの本館が分館が築かれた。

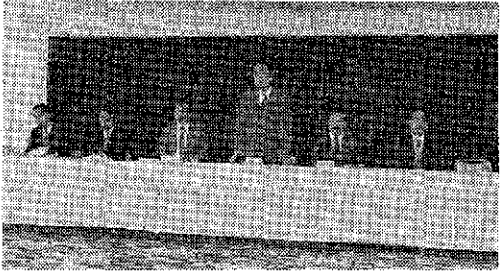
公民館が市町村長の手から離れて、高度経済成長時代に、活動領域が狭められた。

物から心へ

細野 一二

社会的にも良好な状態とは、心豊かな人間を意味するものであります。社会教育の基本的理念はまさに、社会的にも良好な状態を醸成することであり、生涯学習にわたる学習活動をとおしての心の健康づくりにあるべきであります。59年と60年

そのためには公民館がその推進力になるべきだといふ信念から、自から資料(全公連刊「月刊公民館」誌7月号の巻頭言「郷土自治建設と公民館四十周年」)を用意さて、寺中構想が今日思っていることを力説された。その資料の後段部分、な石井会長は、地方の活性化を抜粋して紹介する。



あいさつする県公振連石井会長

公民館舅爺のメモ

成島 継紀

古の話しになるが、公民館のたが中身がない。スナックやあるべきが、提呈されたこと、県会館に大いに学ばせし。」と、県公連の事務局に口角を申しあげた。

とほして、それぞれの現場を材料にして論じたものだ。「レッシュと論が今ごろ何をいうか」と笑われるかもしれないが、悩める現代公民館人の妙案の一つで一筆で免。

公民館とは何か——これまでも四つの役割があるといわれてきた。①公民館は住民の自由なたまり場、②公民館は住民の集団活動の拠点、③公民館は住民にとり、④公民館は住民による文化創造の場である。この四つが機能するには、施設設備はもちろん、いつの時代でも職員が問題だ。教育は人なり」といふ。責を負う第一条件を思ふのだ。四角四面のことばはいえ、"新しい方向を持つた公民館にしていくための、専門的見識と意欲をもった職員"というところになる。

目八目

筆者の眼に映る、現代公民館(職員)(公民館主事)像はあまりよく映らない。率直に言わせてもらえば「建物だけ派手に、東郷郡郡村議会議事局長

しかし、全公連の「公民館のあり方」とを眺め返してみよう。公民館の理念として①人間尊重の精神、②生涯教育の確立、③住民の自治能力の向上の三点を明確に記している。

憲法の基本的人権、地方自治の本旨(地方自治法にもあり)、ユネスコの生涯教育、国民生活審議会(ユネスコ)、長洲神楽川果知事の地方の時代、平松大分県知事の一村一品運動に象徴される村づくり、町づくり、密閉型の住民の活力、それらはすべて寺中構想に包含されており、公民館の理想の三原則に継承されている。

生涯教育は教育委員会所管の範囲を超えており、公民館はそのセンターである。

すべき事業(2)

委員会答申の解説—

これまでの公民館にはあまりなじみの深いものではない。しかし生涯学習は、いうまでもなく、集団形態や集会形態で進められるよりは、個人形態で行われる方が多いのである。

(5) 他施設・行政との連携

これらの生涯学習の促進をばかするためには学習機会と学習資料と専門家専門機関に関する情報の収集とその情報を入手する手だての体系化・整備が今後はきびしく公民館に求められる。このためには公民館どうしの連携のみならず、図書館・博物館などの他の社会教育施設との連携が必要となる。またそれにとどまらず、地域内の他行政機関や他行政施設と

立教大学教授 岡本包治

の各段階における綿密な連携が前提条件となることはいうまでもない。

生涯教育時代とは、公民館だけで住民の学習需要に応じきれなくなった時代のことであり、また各方面の協力が前提となる社会のことでもある。

しかしここで連携といったが、実は現今の状況からいって公民館がもっとも連携の中心となりやすい条件をもっているのではなからうか。というのは他の施設はそれぞれが固有の施設目的に拘束されやすいしまた、固有の学習媒体にこだわりを持ちやすいのに反し、公民館は従前からの活動の伝統にも支えられて、地域内の諸施設・機関の諸機能を活用してきている側面が決して少なくないのである。

◇第四構造の事業—還元・連帯活動への援助

(事業例) 社会教育ボランティア活動の促進、各種集団の連携の仲介 その他

(1) 公民館学習の真価の発揮

公民館の究極の目的が、住民の自治能力の形成にあることは前述のとおりである。世上よくいうところの『集い・学び・つながる』の最終局面を意識した事業がこの第四構造に該当する。それを学習者たちが行う学習成果の地域還元としての社会教育ボランティア活動の促進として位置づけることができる。そして、この活動こそが大きなポイントであることはいうまでもあるまい。単なる大学や高校の開放講座やカルチャー・センターの学習との決定的な差異(公民館だからこそのこと)がここに存することももはや常識となった。地域を基盤とした、地域住民の手による公民館における学習の真価が問われるのは、この事業の成否に関わっているということもまたこれ常識なはずである。各種の学級講座やグループ、団体における学習者に公民館がこの活動を大きく期待し、その諸方策を強化する必要がある。しかしこのさい大切な視点は、「いつでも、どこでも、みんなができるボランティア活動」という観点なのである。高齢者をはじめ婦人たちのボランティア養成活動がとかく出会う障害は、その活動の機会や場の少なさであるといわれるが、それは、ボランティア活動というものを「特定時間の特定場所における特定活動」と規定づけることに起因する。そうではなくて、日常生活の場(まさに地域内)で

の気張らない活動としてボランティアというものを解釈しなおすことを公民館職員たちにおすすめた。まさに「生きざま」としてのボランティア活動を高く評価する方向での方策を講じてほしいのである。つけものの漬け方、ハンライスのつくり方を他の人に近隣でおすそ分けすることを高く評価してほしいのである。

(2) 各集団のつなぎ役

また、各集団はそれぞれが弱体であっても、それらが提携して、地域の共通課題に取り組みれば大きな成果を生むと同時に、つながりがそこに芽ばえることを指導していく必要がある。これもまた、いうまでもなく公民館なればこそ可能な働きかけなのである。他の学習機会・機関ではとうてい不可能というほかない。

とすれば、学習成果のおすそ分け、つまり学習成果の還元の奨励と集団の連携を仲介することを、各地の公民館はその事業ないし仕事の大きな決めてとして位置づけることによって、住民の生涯学習への対応ができると考える必要があるのではなからうか。



県公民館大会

開催地レポート(3)

公民館の選択

—全公連第五次専門

◇ 第三構造の事業—自らの学びへの援助

(事業例) 自主グループの育成、既存集団への援助、個人学習への援助

(1) 幅広い地域集団への援助

学級講座・行事から自主グループを生むということとはもはや常態であるが、これらのほかに婦人団体や高齢者集団など既存の各種集団への援助がいま公民館に求められている。とくに現在の公民館に大切なことは、みずからの施設を利用して成長したグループのみを重視することではなく、地域に存在する多くの社会教育集団にも多くのサービスを行うことなのである。

公民館が地域に根を張って地域住民の生涯学習を援助するというためには、みずからの施設を常時利用する小単位のグループの育成のみエネルギーを費やすようでは困るのである。もっと多数の地域住民が加入している集団そのものとの協力及び援助が展開されなければ、永遠に公民館は「一部住民のもの」としてしか機能しない。公民館とは「有閑マダムの保育園」などという声がたとえ一部の地区からでも聞こえてこないようにしなければ地域施設の横綱たる公民館の地位が落ちるのである。今後の公民館の克服すべき課題は、この点にあるといっても過言ではなからう。

(2) 集団への援助方策

ところで、自主グループの育成や既存団体への援助方策はおよそ次の如きことがある。それは、①施設の提供、②設備や資料の提供、③助言、指導、④情報提供、⑤リーダー研修の機会提供、⑥助的援助⑦事業の共催などである。

まず施設の提供については、利用集団の数が少ないうちは問題はないが、その数が多くなると利用上の調整ということが必要となる。もともと公民館は、現にその施設を利用している集団へのサービスを心がけるべきものであるが、それ以上に心がけねばならないのは、常に新たな学習集団が生まれるようにしかけるということなのである。とすれば当然公民館利用の集団がお互に利用上の協力をするように働きかけなければならない。とくに古くからの利用集団には、既得権の如きものを振りまわさないように協力を求める必要がある。また利用集団同志の

つながりを作るようにすすめて、利用集団の連絡協議組織を結成する働きかけも行わなければならない。さらに地域内にある公民館以外の施設を調べて、その活用方をもグループにすすめていく必要が生まれてくる。

(3) グループの私塾化を禁ずる。

また、集団の育成については助言、指導も大切な公民館の仕事となる。とくに自主グループの場合は公的施設を活用する生涯学習集団としての自覚をうながす必要にせまられることも少なくない。たとえば自主グループがいつしか「私塾」に変容してしまっていくことへの歯どめが求められる。公民館がすすめているのは、住民たちの自主活動としてのグループ学習活動なのであって専門家の主催する私塾ではないのである。グループのメンバーたちが自分たちの手で学習プログラムを作ること。自分たちで運営すること。お月謝ではなく会費を徴収すること。利用の申込みは講師ではなく、グループの人たちが行うこと。役員や会計その他のとりきめを作って民主的に運営すること、開放性をもって新人を加入させること。その他の指導・助言が必要となる。この指導・助言を怠ることから閉鎖的で利己的なグループが生まれやすく、それが地域からの反響の原因となってくるのである。

(4) 近代的な関係の必要性

また、婦人団体その他の既存集団との間には近代的な関係が求められる。公民館の側で団体の会場整理や会計をしたり、通知文を作成配布することを止めないと、いつまでも団体の「自主」は生まれない。しかしまた、この近代的な関係を確立するためには、公民館の側も、行事や学級講座の集まりが思わしくないときに、婦人会などに泣きついて、人集めを頼むというような「借り」を作らないことである。

次に個人学習の援助については、①学習情報の提供、②学習者の交流の機会の提供、③学習相談の実施などというものが求められる。この種の事業は、

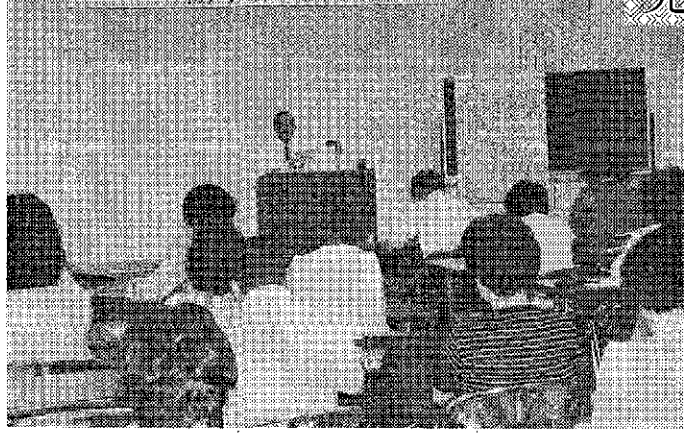
保健衛生講演会

見附市今町公民館

実践記録シリーズ

関心の高い漢方療法 保健衛生講座を開設

昨今の医療では「薬漬け」が問題となつて...



熱心な受講スナップ

古来から伝承され、親しまれてきました。...

「知るは楽しみなり」とか、最早。『現代医学の進歩で、化学...

「知るは楽しみなり」とか、最早。『現代医学の進歩で、化学...

Table with 5 columns: 回数 (Number), 日付 (Date), 内容 (Content). It lists five sessions of the 'Herbal Medicine Lecture'.

成人を対象とした講座を開設していきたいと思っています。 (今町公民館 高木正 記)

プロフィール

燕市中央公民館社会教育主事 金子 彰男 (31歳)

当市は、金澤市と西蕨地区公民館を担...



彼金子彰男社会教育主事は、昭和五十四年に就職、教育委員...



モシモシ

こちらテレホンサービス

学習情報伝えま

学習情報を提供する仕事は、生涯学習を推進するうえで欠かすことができない。公民館でも、この学習情報をどのような方法で住民に伝えられるかを工夫する必要がある。

県教育委員会が実施した「県民の生涯学習に関する意識調査」(昭和58年2月実施)によれば、何らかの方法で学習情報を得ている者は36.5%であるという。情報入手の方法で学習情報を知っているのは、職場広報紙・市町村広報紙さらに新聞雑誌等のマスメディアである。今後希望する方法はというと、身近で手軽に入手できる方法をとという声が高いと報じていた。

それなら、近年各界に普及しつつある電話による方法はどうかと思、「テレホンサービス」の周辺を探ってみた。



情報無線サービス (安塚町で)

身近で便利な テレホンサービス

テレホンサービスによる情報伝達は近頃でも、役場・学校・農協などかなりの活用が見られるが、公民館・図書館などの利用はまだその数が少ない。(表参照)

県内の公民館での状況は、新潟市や三条市で既に試みられており、生涯学習推進課(新潟市)の指定を受けた県内各公民館でも、本年四月から学習情報提供のためのテレホンガイドを実施している。

また、安塚町では、テレホンガイドを含めた電話相談コーナーを設け、学習相談に努めている。近年公民館でもこのサービスが活発化する学内や相談がなされるようになったり、実施している市町村の住民から、関心が高まって

学情報小計	32
学校・保・高	
社会教育情	6
社情(図・博・公)	
農協情報	14
役場情報	18

欲しい情報が得られると喜ばれていて、

ぜひ一度 試聴してみても

公民館で実施しているテレホンガイドには、次のようなものがある。

新潟市の「文化会館・公民館催し物案内」(電話〇二五〇二二二三二)、三条市の「三条市公民館アレクサイド」(電話が！)

図書推薦コーナー

子どもの放課後110番

親の会編
子どもが雇われても働き続ける母親が増えている。働く母親を持つ子どもたちは、小学校入学校後、放課後をどのように過ごしているだろうか。

本書は、入学間もない小学生を持つ働く親たちへの良い手引きである。

エッセイ集 B6版 二二六頁 一、二〇〇円 61年1月刊行

いじめ

筒内 仁 他共著
本書の内容は、いじめの現状集団に於けるいじめの構造、いじめの対人心理、いじめを生む土壌などを扱った上で、子どもたちの心の世界と真実の訴えに読者の目を向けさせようとする。

家庭裁判所の調査報告という、豊富な経験から生まれた好著である。

愛蔵通信 B6判 二四三頁 一、二〇〇円 61年3月刊行

親子関係と子どものつまずき

山中康裕 著
子どもは親に甘え、親と戦いながら成長して行く。著者は子どもの成長に決定的な役割を果たすこの親子関係という面から子どもたちの心身の危機を深める心の問題としてとらえ直し、家庭教育のあるべき姿を提言している。本書は、シリーズ「子どもと教育」第2巻「全二十巻」の最後の一巻である。

岩田慶治 他共著
子どもをめぐる文化を、さまざまな自由活動のなかでとらえ、それを日本という特殊な地域社会から、広く世界の諸民族生活の場へ拡散させた上で、あらためて相互に比較して見るといふ試みは、エッセイと写真で行っている。

いっしょに、世界の子ども文化のあるべき姿を追求して行く本である。

へもん出版 B6判 一八三頁 三、三〇〇円 60年9月刊行

子どもの世界

岩田慶治 他共著
子どもをめぐる文化を、さまざまな自由活動のなかでとらえ、それを日本という特殊な地域社会から、広く世界の諸民族生活の場へ拡散させた上で、あらためて相互に比較して見るといふ試みは、エッセイと写真で行っている。

いっしょに、世界の子ども文化のあるべき姿を追求して行く本である。

へもん出版 B6判 一八三頁 三、三〇〇円 60年9月刊行

安価で安易な
テレホンサービス
NTT新潟支社では、情報化時代を象徴するサービスとして、いろいろなチャンネルでテレホンサービスが活用されている。

その理由は、一つは安価に設置できること。二つは、管線に取付けできること。三つは、利用者がいつでも、どこでも手軽に利用できることである。

ちなみに、この設備は、機械一式三万円台から、取付工事を含んでも八万円程度で設置できる。その上、月々の養料費は千二百五十円で、年間一万五千円と安価で維持できる。

また、一回の情報伝達時間は、三分から一時間まで自由で吸着料がかからない。情報量と利用者の活用を考慮し、効果的な利用が考えられる。

デモ機
無料で貸します
NTT新潟支社の話では、公共機関に限り、年間機械を無料で(ただし、基本料金月額三千二百十円は除く)貸し取りを前提として、貸出試験制度があるという。御希望の公民館では、ぜひ試してみても。

御相談は、NTT新潟支社「でんわミニエージェンシー」(新潟市山崎町二丁目三七、電話〇二五二二三一九二六八)へお問い合わせ。

事業紹介 V

県社会教育課関係事業

家庭教育(幼児期)相談事業

(1・2の3ちゃん)

幼児(満3歳の第一子)をもつ親に対し、手紙などによる通信、テレビ放送、巡回相談等により、家庭教育上の具体的な課題解決の手助けをするもので、次のとおり実施します。

- ・1・2の3ちゃん通信
- ・テレビ放送「幼児の家庭教育」
- ・リーズ1・2の3ちゃん

市町村新任社会教育関係

職員研修会(後期)

市町村の新任社会教育職員を対象に、社会教育行政、活動事業などの基礎・基本について研修する機会です。

- ・期日・会場
上越地区 9月18日(水)
中越地区 9月30日(火)
長岡市・長岡総合庁舎
佐渡地区 12月3日(金)
佐和田町・佐渡中央会館

新潟県国際交流活動研修会

国際化の進む中で、国際社会の主人公として、何を学び、何を実践しなければならないかの手がかりを得る研修会です。

- ・期日 9月20日(土) 21日(日)
- ・会場 中越婦人会館
- ・参加対象者 国際交流活動に理解と関心をもつ者

通信を通じて寄せられた親の質問のうち頻度の高い項目を題材にテレビ放送するものです。

放送局 テレビ新潟放送局 (TNN)

放送日・時間 9月7日(日) から3月1日(日)までの毎日曜日午前8時45分より

PTA指導者研修会(後期)

青少年の健全育成を目的とするPTA活動の活性化を図るため、前期に引き続き次の各会場にて

- ・時まで
再放送 この期間の毎土曜日 午前10時45分から11時
- ・巡回相談 交流会
対象者 送付した方がき、相談のための事項を記入したたき、これを基に面接相談するものです。
- ・期日・会場 上越地区二会場 中越地区三会場 下越地区四会場 佐渡地区一会場です。
- ・期日・会場 10月3日(金) 上越会場

公民館史資料集成

横山 宏 (早稲田大学客員教授)
小林 文人 (東京学芸大学教授)

良書紹介

- 解説・戦後公民館通史 資料編(編題・資料)
- 一、初期公民館の構想と普及
- 二、公民館の法制化
- 三、公民館の拡充運動
- 四、公民館活動の展開過程
- 五、公民館改革の構想
- 六、沖縄・奄美の公民館

資料の最初に紹介されている「公民館の振興と公民館の構想」は、戦後直後の混乱の中で当時の文部省公民教育課長寺中作雄氏が「大日本教育」(一九四六年新年号)に掲載したもので、「次官通牒」の下書きの役割をしている。

本書には一九七〇年前後までの中央地方の資料が収録されているが「公民館の研究や実践」に人びとの共有財産として活用されることを望んで、あくまでも資料集として、資料をもつて語らせたという意図を強調している。

地方定着型資料として、公民館が新制度下でのように普及していったかを示す興味ある資料や回想が載っている。また、丸山直一郎氏(本県公運会長、公運副会長)の「公民館はなぜ必要か」は往時の公民館単行法運動に果たした真公運の立場と役割を想起させる。

「次官通牒」から四十年、今社会教育、公民館は極めて厳しい状況にある。この資料集成を軸として、公民館の活動を考えたいものである。

(定価二万二千円、書店版) なお姉妹編として、同編者による「社会教育成立過程資料集成」(昭和出版、五千三百円)が既に刊行されている。

社会通信教育研究会

文部省認定社会通信教育受講者の学習成果を高めるための面接指導の機会です。

- ・期日 10月5日(日)
- ・会場 長岡市立南中学校
- ・長岡市南町2丁目1番
- ・コース。中小企業診断士
- ・保育

中条町役場
中条会場 10月23日(水)
佐和田町佐渡中央会館
対象 小・中学校、特殊教育指導学校PTA役員及び教師会員
申込み・問い合わせ 各所管教育事務所社会教育課へ

親子の目(テレビ)家庭教育教育番組

民間放送協会で文部省では「親子の身近な問題考える」をテーマにテレビによる家庭教育番組を放映します。

- ・放送局 新潟放送(BSN)
- ・放送日・時間 7月5日(土)から9月27日(土)までの毎土曜日、午前10時45分から11時15分まで

あとがき

本会と共催になる新潟県全古川教授による、「公民館職員」の専門性に関する調査「はじめて」回収を終え、集計作業に入っています。

回収率は82.5%でした。これだけの回収率であれば、信憑性の高い結果が得られます。

ご協力の中、協力、まことにありがとうございました。

申込み 9月15日(土)まで市町村教育委員会へ
問い合わせ 県教育庁社会教育課
高等学校PTA指導者研修会(後期)
期日 10月24日(金)
会場 県庁行政庁舎会議室
対象 高等学校PTAの役員及び教師会員
申込み・問い合わせ 県教育庁社会教育課へ